

## 令和7年度 第2回 市川市地域ケア推進会議 会議録

### 1. 開催日時

令和8年1月28日（水） 18時30分～20時00分

### 2. 開催場所

市川市役所第1庁舎5階第3委員会（市川市八幡1丁目1番1号）

### 3. 出席者

#### 【委員】

山下会長、越田委員、大野委員、岩松委員、秋本委員、岸田委員、山本委員、  
鎌形委員、小沢委員、細野委員、渡邊委員、牧野委員、横山委員 計13名  
（欠席者1名）  
（敬称略）

#### 【市川市高齢者サポートセンター】

各高齢者サポートセンター（生活支援コーディネーター含む）から計11名

#### 【市川市】

地域包括支援課 高橋課長 ほか

### 4. 傍聴者

0名

### 5. 議事

- （1）第2層生活支援コーディネーターの活動紹介
- （2）令和6年度に開催した地域ケア会議について
- （3）事例を通じた地域課題に対する対応の検討（グループワーク）

### 6. 配布資料

- ・令和7年度第2回市川市地域ケア推進会議 次第
- ・令和7年度第2回市川市地域ケア推進会議 資料

7. 議事録

(午後 18 時 30 分開会)

発言者	発言内容
地域包括支援課長	<p>お集まりいただきまして、ありがとうございます。</p> <p>本会議は、可能な限り高齢者が住み慣れた地域でその人らしい暮らしを続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制の構築を推進するため、地域における課題を把握し、解決に向けて取り組んでいくことを目的としています。</p> <p>今年度7月に開催した第1回目の会議では、市内15か所の高齢者サポートセンターに、第2層生活支援コーディネーターが配置されており、担当地域の資源把握や課題対応のため、日々活動していることをお伝えさせていただきました。</p> <p>本日、第2回目につきましては、生活支援コーディネーターの活動内容をご報告いたしますとともに、令和6年度に開催しました地域ケア会議の内容より「独居高齢者の見守り、閉じこもり・孤立への支援」をテーマとして事例検討をする予定でございます。地域でご活躍されている委員の皆様のご意見やお力をお借りし、事例にある高齢者への支援策を検討することで、地域に住む高齢者全体への効果的な支援や施策につなげることができればと考えておりますので、是非、それぞれのお立場から積極的なご意見・ご提案をいただければ幸いです。</p> <p>本日の会議を通して、団体間の交流が深まり、地域のネットワークの構築につながることも期待しておりますので、是非この機会をご活用いただけますと幸いです。</p>
山下会長	<p>ただいまより、令和7年度第2回市川市地域ケア推進会議を開催いたします。</p> <p>まず、今回新たに委員になられた、市川市民生委員児童委員協議会、渡邊委員より一言ご挨拶をいただければと思います。よろしく申し上げます。</p>
渡邊委員	<p>市川市の民生委員児童委員をやっております、渡邊恭山と申します。</p> <p>初めての会議参加ということで、皆様のお話をよくよく聞かせていただきたいと思います。よろしくお願いたします。</p>
山下会長	<p>では、事務局より説明をお願いします。</p>

### 議題（１）第２層生活支援コーディネーターの活動紹介

（第２層生活支援コーディネーターの役割や活動事例について、配布資料に基づき説明）

山下会長

ＳＣ（第２層生活支援コーディネーター）は地域づくりをしているので、ボランティア活動や市民同士の支え合い活動など、専門職と住民が協働するような活動を、介護保険の給付外の支援を厚くしていくこと、また、市民の参加を得ながら、資源のストックを厚くしていくのがＳＣの目的になります。

１つ目の事例は、いわゆるクライアントである患者でも利用者でもない、活動されたい方に着目して、その方と活動の場を広げていくケースとして、活動へのフォローや、コーディネートをしている、特徴的な事例になります。社会福祉協議会のボランティアセンターは昔からやっていたことかと思いますが、特に高齢者サポートセンターでＳＣを置いて進めるといのは、さらに促進させていくといった観点でご理解いただくといいかと思います。

事例２については、介護保険の要支援要介護認定の対象外だったということで、いわゆる公的なサービスが使えない状況にある方ですが、とはいえ、日常生活においてごみ出しに関連する苦慮が実際にあるということで、今度は市民活動につなぐという形で、支援をいったん進めつつ、引き続き連携しながら利用状況の確認や、新たな課題が無いか共有していると書いてあります。

さらに、ここでＳＣに期待されるのは、ごみ捨てが他の市民の課題でもあると捉えたときに、今のごみ出しのシステムが、今の高齢者像に本当に合っているのかという点検も含めて、高齢者のできないところを何かのサービスがサポートするだけではなくて、市のごみ捨ての仕組み自体にも、実は市民は注目しているという点において、行政のサービスや制度のあり方についても、実は市民が考えている事があると、ＳＣが受け取っているという事実です。この会議で、ごみ捨て問題について検討して解決していくということではないのですが、問題意識として持っているのが大事なので、そういう町の政策に実は影響されて、制度上の問題等で生活のしづらさというものが、コーディネーターのお仕事の相談の中で出てきていることを理解していくことが重要だと思います。そういう意味では、その他に移動の問題である免許の返納とか、車の運転を躊躇されるとか、そもそも足が悪くて移動に支障が出てくる方も、きっとこれから激増するはずで、一方で、リハビリテーションとか、しっかりと予防していく観点もとても大事だし、さらには、それに応えられない状況になった時に、ではどうやって生活の質を保っていくのかを、制度上のサービスだけに期待して

<p>山下会長</p>	<p>解決するという発想ではなくて、それが支え合いの仕組みの中でも可能なのかを調整していくのが、今回の地域ケア推進会議の本旨になります。</p> <p>制度で解決するという発想ではないのが、この会議の大きな軸ですので、それを市民、行政、専門職だけで考えるのではなく、このテーブルについての方々に意見交換をしながら、地域づくりの素地をつくっていく事が、年2回会議の目的になっておりますので、改めてここで確認をさせていただきます。</p> <p style="text-align: center;"><b>議題（2）令和6年度に開催した地域ケア会議について</b> （令和6年度に開催した地域ケア会議の課題であった独居高齢者について、配布資料に基づき説明）</p>
<p>山下会長</p>	<p>今日は孤立・孤独というよりも、一人暮らし高齢者の地域ケア推進について考えます。事例検討について補足をすると、第1層の地域ケア推進会議は、個別の事例を検討する場ではないので、詳細な事例検討ではないですが、第2層から上がってきた地域課題そのものの解決策や資源を第1層で作ることを検討すると言っても、全然つくれなかったのが、第1層の方、第2層の方やSCの方含めて個別のケースにどうやって関わっていくのか。第2層のレベルでその資源開発も含めた解決ができていない状況がある中で、私たち第1層のメンバーもその議論に入らせてもらい、どういう意見出しができるのか、少しチャレンジングな会議をすることになっています。</p> <p>地域ケア会議は、いわゆる圏域レベルで行うもので、第1層でやるものではないので、高サポの方からもかなり抵抗があったというふうに実は聞いているのですが、これからのケース検討で少し出てくる事例の方のアセスメントというか、いろんな質問をさせていただくような時間も出てくるかもしれない、SCの方であったり、高サポの相談業務に従事されている方だったり、この事例を、外部の私共があれこれと注文をつけたり評価をするつもりで取り扱うのではなくて、市川市民のご高齢の方がお1人でどうやって暮らしているかという状況を、第1層の私たちも理解させてもらいながら、その方への支援を専門職レベルではどういうふうに進めていくかという基本のところと、それでも叶わない状況があるというのが、この後紹介される事例の特徴なので、そのときにどのような支援がその方を独りぼっちにさせないのかということも、今日いらっしやっている方々それぞれ対等な立場でお話をいただくのが、今日の会議の目的です。これを少し蓄積していかないと、資源開発と言っても、例えば一人一人に到達するような資源でなければいけないことを共有することこそ、市川市の今必要な状況であるというところから、年2回しかない会議で事例検討の時</p>

<p>山下会長</p>	<p>間をとらせていただいております。</p> <p>それでは、早速事例検討に移りたいと思いますが、個別ケースを通じた地域課題に対する対応の検討について、グループでお話をさせていただきます。</p> <p>それぞれの立場と仕事の役割が違うので、まずはご自分のポジションを自己紹介いただき、そのうえで、そこを超えて、これからお話しいただく事例の世界に浸ってみるのが大事です。</p> <p>残念ながら詳細な事例ではなくて、かなりモンタージュされているものですが、それだと資源はつくれませんので、これからスライド等また映していただいて、事例紹介をご覧になりながら、目の付けどころを養って欲しいです。事例紹介を聞いて理解するのではなくて、もうちょっとひっかけていく、もっとここを聞きたい、ここはどうなっているのか確認したいという、業界用語でアセスメントと言っていますが、市民の方もアセスメントする時代、つまり他人を支える時代になっているので、ここをもうちょっと知りたいという根拠があれば、守秘義務だからといって、それが共有されなければ地域ケアは成り立たないです。事例紹介は、ここに書いてあるレベルのことが話されますが、皆さんはもうちょっと知りたいことがある。1つ目は専門職の立場で知りたいことがある。2つ目は市民として知りたいことがあるということです。プロの意見も市民の意見も大事だということを共有しながら、事例の説明をしていただきたいと思います。</p> <p><b>議題（3）事例を通じた地域課題に対する対応の検討</b>  <b>（グループワーク）（事務局から事例について説明）</b></p>
<p>山下会長</p>	<p>この事例の高齢男性の方をAさんと呼ぶこととして、それぞれの立場で、Aさんの状況を知るために、質問してみたいことや聞いてみたいことを出し合ってください。意見交換という解決策の話じゃなくて、AさんとAさんの周辺のことを理解するために、知りたい情報が何か、ということが大事です。これが第2層の地域ケア会議でやれていたらいのですが、もしやれていなかったら、第2層の地域ケア会議もこういうやり方でやってみてください。それではグループでの話し合いの進め方を事務局でご用意いただいておりますのでお任せしたいと思います。</p> <p>出席者全員立場が違い、考え方の軸がいろいろあり、地域で活動されている方の気持ちもあると思います。専門職として働いているので、その時間帯の中や守備範囲の中で、どうやってAさんを支援していくのかという支援のネットワークを作らなくてはならない。そういう方は、多分市川市にいるかもしれないので、地域課題としてあがっていますが、その地域課題のために解決する資源を1つ作ったところで、この人には到達しない可</p>

<p>山下会長</p>	<p>能性がある。地域づくりをするからには、個別のケアのことをよくわかったうえで、地域づくりにトライして、個別の問題が解決できているかを、確認しなきゃいけない。これが地域の一体的支援というソーシャルワークの新しい手法というか、今まで積み上げてきた手法であり、SCがされているのだと思います。Aさんは架空に近い事例ですから、第1層の会議の中で、どこまで話ができるかというのは、先ほど申し上げたチャレンジングなのです。Aさんのことをもうちょっと知りたいという事で、グループごとに質問したいことを教えてください。</p>
<p>1 グループ 発表者</p>	<p>(1 グループ、事例への質問内容を発表)</p> <p>年金収入などのお金の状況がどういったものなのか。生活状況。息子が遠方という事ですが、援助がある状態なのか。要介護4という、かなり介護度が高い方なので、援助がないのか知りたいという声が上がりました。ペースメーカーを入れているということで、通院や診療の方はどうなっているのか、主治医との関りや、要介護4に至るまでの以前の状況があるので、誰が介護を進んで行っているのか、どのように体の状態が悪化したのか、キーパーソンになるだろう息子さんが本人の状態をどう思っているのか、奥様が亡くなられてからの生活としては、男性である本人のお食事をどうしているのか、元気な時にいろいろな活動を地域の方とされていたという事で、何をされていたのか、日常生活をどのように過ごされていたのか、生活リズムとか、そういったいろんなところが見えてくると良いという話がありました。</p>
<p>3 グループ 発表者</p>	<p>(3 グループ、事例への質問内容を発表)</p> <p>山下先生のおっしゃっていたように、皆さまそれぞれのご職業の立場から、気になっていることがありました。どのくらい歩けるのか、家の中や外は歩けるのかといった身体状況や、ご家族の状況である息子さんと本人との関係、町会に加入しているのか、地域とのつながりはどうなっているのかが、大きなことではないかと考えました。医療的な立場から、ペースメーカーを拒否しているという事は、心理的に何かあるのではないかと。そして、個別事例を考えると、市川市のどこに住んでいるのか、地域の中で特性があるので、助けてくださる方がいるのか、そういう情報がわかれば、もっと検討していけると考えました。</p>
<p>4 グループ 発表者</p>	<p>(4 グループ、事例への質問内容を発表)</p> <p>ケアマネジャーより、要介護4はもしかしたら退院直後の認定だったのではないかと、今は下がっているのではないかと、というところで、今の身体状況は、今後希望するサービスが、訪問診療や訪問看護でヘルパーを増や</p>

4グループ 発表者	<p>したいと書いていなかったなので、今の実際の調査の状態がわかれば、というご意見をいただきました。</p>
2グループ 発表者	<p>(2グループ、事例への質問内容を発表)</p> <p>ペースメーカーであるという事から、薬を持っていらっしゃるのかという基本的な視点で質問をいただきました。ヘルパーさんが入っているが、介護や食事面はどうされているのか。また、地域にこう言った悩みを聞ける機関があるのか、対応できるか、といったご意見がありました。</p>
山下会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>私が受けているケースカンファレンスだと、こういうケースは2時間半くらいかけてやります。この方の事例紹介で、事務局で用意した文章から、今の皆さんのいろんな背景とか状況を知りたいですが、よく見ると、奥さんが他界された一人暮らしなので、いつから一人暮らしが始まったのか、独りぼっちになったのかという点が、目の付け所です。一人息子はいるが、遠方に住んでおり、他の身寄りはいないという部分では、奥様の葬式の時に息子さんは来てくれたのかなとか、そして、妻が元気な時はどんな地域の活動に参加していたのか、妻も活動していて一緒についてきたのか、それともご主人が率先して妻が付いてきたのか、それがどこの地域の活動なのか知りたい。文章をそのまま読むと、歩行が不安定なのだけで活動をしていた、というところに、この人の力強さとかを見出したり、つまり、ネガティブなところだけ見ると地域づくりは難しく、この方は歩行を頑張ろうとしていたのではないかと。それはなぜなのか。奥さんと一緒に行きたいから。そんな理由があるのかもしれない。発語も不明瞭なため人と会いたくないと自宅に閉じこもりがち。これは、当初から起こっていたのか、時間軸があったのではないかと。つまり、人が地域で暮らしていくときの時間軸、私たちが大切にしながら老いと向き合わなきゃいけない時期に来た時、そして一人で暮らしていくときについて、どうやって考えていくのか、そういう地域づくりをしていく。</p> <p>今、この方の状況はお掃除でヘルパーが入っているけれど、皆さんからは、ご飯はどうしているのか、いろいろご質問をいただきましたよね。大事だと思います。ケアマネジャーも頑張られているのではないですか。この方にとって、安楽な生活ができるように、サービスの導入をご提案したけど、ご本人が積極的な支援を望まず、と書いてありますが、どちらかという拒否しているに近い感じなのかもしれないとわかりますよね。では、なぜヘルパーの掃除だけは引き受けているか。ヘルパーさんってどんな人だろう、みたいな質問でもよかったかもしれない。今の生活環境が、少なくとも専門職の方々から見ると、心配なケースではないでしょうか。</p>

<p>山下会長</p>	<p>先ほど質問をくださった、市民はこのことを知っているのか、隣近所の関係がどうなのか、そういう質問がありました。ケアマネジャーさんはお隣近所の関係なども知ろうとしているんじゃないでしょうか。予測するに、奥様が亡くなられた後、閉じていたからご近所も話しかけてくても、もう来ないでと言われて扉がシャットアウトされて、閉じこもっている状況だから、ご近所も心配だけど入り込めない状況に、もしかしたらあるかもしれない。そんな質問をやり取りされてもよかったかもしれないです。そこで私たちは、この方に制度、サービスの導入が重要だという価値観に、この会議は立つというよりも、次の検討事項で事務局が用意した、またAさんを地域で見守るには、Aさんのような状況な方が他にも思い浮かばれて、実際にこの人が入っているなら、その方を地域で見守るには、どういう手当の仕組みがもっと広がったらいいかなど、岩松委員はそれをなさっているわけです。だけど、そうでないところもあるから、どうやって地域の方がそういう方に積極的に接近できるか。地域の方もそれを知らない時に、どうやって関わっていくかという、専門職と地域住民の協働が必要です。そういう時の仕組みや見守り方を、ぜひ皆さんの地域を少しイメージしていただきながら、市川市全域で考えていくより、もう少し小さな地域で考えるために、今日第2層のSCの方が来てくださっています。どうやって地域ごとで見守りができるのか、もし、しているのだったら、共有したらAさんにたどり着くヒントがあるかもしれません。ネガティブな議論ではなく、ポジティブな議論を是非していただきたいと思います。それが、事務局が書いてくださった、高齢者が地域で活動的に、共に暮らし続けるためには、地域の活動にも参加していたことに着眼しながら、支えられる立場という風に決めつけてはいけない、というところに、これからの高齢者ケアの希望があるのではないか、というのが地域ケア推進会議です。どのようなことができそうか、すでにあるものを少し皆さんに手繰り寄せたりするのもいいと思います。どんな仕組みがあるのか、それぞれの立場を超えて、ご意見などの交換をこれからしていただきたいと思います。</p>
<p>2グループ 発表者</p>	<p>(2グループ。地域課題に対する対応の検討案)</p> <p>1番では、市民の目線からだ、Aさんの悩みはどんなものか、誰に相談しているのかを知りたいという話が出ています。本人が支援を望んでいないので、望まない理由を知りたいです。そこから、どのような繋がりを地域でどういう風にしていくのか話ができればと思っています。</p> <p>2番では、どのような仕組みを活用できるか、というところで、ヘルパーさんが入っているので、ヘルパーさんは利用者さんに受け入れられているのだと思います。そこで、ヘルパーさんのほかにも、食事を作るとか、</p>

<p>2グループ 発表者</p>	<p>そういうところで人との交流ができるような基盤を作っていると、是非皆さんに、介護サービス側から、地域の皆さんへ発信をしてほしいと思いました。市川市では配食サービスがあり、この方のように食事がとれているのか不安な方には、市のサービスを使って、食事を提供して、市と連携ができる事業所さんを導入しています。市民がボランティアでお弁当を作って独居一人暮らしの方にお届けする仕組みがあれば、もしかすると、Aさんのことを知っていたわ、といった関係性が作れると思うので、そういったお弁当を作るボランティアが今後生まれればいいなと思いました。</p>
<p>4グループ 発表者</p>	<p>(4グループ。地域課題に対する対応の検討案) 民生委員をされている委員より、「こんにちは」を大きな声で呼びかけることが、重要ではないかというご意見が出ました。昔から住んでいる人に限られてしまい、地域によっては難しいですが、大きな声で呼びかけることで、隣近所や地域の方が気づいていただくきっかけになり、見守りができるのではないかという意見がでました。</p>
<p>3グループ 発表者</p>	<p>(3グループ。地域課題に対する対応の検討案) 自治会の中で、個人情報共有をして、適切な場所、例えば地区社協や高サポにつないでいくという事で、高サポであれば、その人が一体どういう地域や認識があるのか。奥様と活動していた時もあるというところから、どういう活動に興味があるのか、どんな活動をしていたのか、役割を持たせるように働きかけたらいいかと思いました。例えば、町内会でやっているごみ拾いに参加してもらえるといいかと思います。歩行状態も気になるというところで、必要な専門職につなげて、興味を持ったところで、これを目標として頑張ろうか、と声掛けをしていく。あとは、市ではチケット75があるので、うまく活用することができれば、活動の範囲も広がるので、活用していくのも一つの手ではないかという意見が出ました。</p>
<p>1グループ 発表者</p>	<p>(1グループ。地域課題に対する対応の検討案) ご高齢で心疾患があるということで、医者や看護師との連携が必要だったり、リハビリや生活を支えるための入浴等の支援を整えることで、地域活動につなげていくことができ、それをきっかけに、地域の見守りになっていくのではないかという意見と、ご本人が結構頑固になっているのではないかということで、実際に八幡地区で火の用心の声掛け夜回りで、独居の方への声掛けを2年続けたことで、関係性ができたので、そういったところから医療につなげていくほうがいいという意見が出ました。 2については、実際に地区の自治会で独居の方への見守りのシステムが</p>

<p>1 グループ 発表者</p>	<p>あるので、自治会の力を借りて見守りづくりをしていくのがいいのではないかという意見と、本人の意思を表すカードを利用することで、実際に本当に支援が必要なときに意思表示をしていただくことで、必要な支援につなげていくことができるのでは、という意見がありました。</p>
<p>山下会長</p>	<p>地域での見守りのテーマでご意見をたくさんいただきました。今回はAさんという事を中心に考えましたが、Aさんを地域で見守るには、今のところ積極的な支援を望んでいないので、入りにくいという状況がりますよね。でも、ここで積極的に接近していこうというのが、地域ケアにおいて重要なので、先ほどの民生委員さんのように、本人と接近しにくい場合は、周辺からというやり方があるので、本人に声をかけているようで実は地域に声をかけている、大きな声でなくても、隣近所とちょっとお話するやり方をされている民生委員さんもいらっしゃるし、ケアマネさんと一緒に共有されているという時もあり、いろんなやり方があると思います。接近した時に何を受け取るかが大事なのです。このケースは、奥様が亡くなってやる気が無くなっちゃったというか、生きる意欲さえ削がれるぐらい大きな経験をされて、息子さんには、もしかしたら早くお迎えが来ないかなってポツリ言っているかもしれないし、いつまで生きていけばいいのかと思っているかもしれないし、もっとこんなことをしてあげればよかったのにと悔やまれているかもしれないし、それはなかなか消えない状況かもしれないですよ。でも、ご近所の方はわかっているから、だからこそ入りにくい、声かけにくくてどうやって接近したらいいか、実は近所が気にかけていたケースかもしれないですよ。なぜなら、地域活動に参加していたから。地域の方は遠慮して入り込めない状況ができたときは、専門職も実は入りにくいです。</p> <p>そこで一緒になって、その方にどうやって関わっていこうかと進めるときに、「元気ですか」と言ったら元気ではないのです。その声かけはダメなのです。閉じこもりの方のファーストノックをどうやって展開していくかをぜひ第2層のコーディネーターと話し合いながら、こういう方への接近方法を市民に任せるとかじゃなくて、一緒に関わっている人たちで編み出していく、または既にやっている方の事例を参考にしながら、活かせるものはないか考えていく。一番この方の少ない情報が医療情報で、体が落ちている感覚があると、免疫力もなくなってしまいます。そうすると、食事はとれているのか、栄養は摂れているのかという先ほどのご指摘は非常に重要なので、たんぱく質をとれる血や肉になるものを食べているのかも大事で、そういうとことも話の素材にしながら、ただ声をかけるだけでは済まされない状況が、この方にももしかしたらあるかもしれないので、そうするとヘルパーさんが掃除だけで本当に良いのかどうかということも着目し</p>

山下会長

ますよね。そしたら、この方にはヘルパーさんが関わっていますから、ヘルパーさんのネットを活用しながら、どうやって広げることができるのかとSCさんが展開することもできて、そこで市民がどのように、例えばおかずを作ったけれどちょっと食べないかというような、自治会や地域でしたらそういうやり方もあるし、配食サービスといったものを、届けるやり方もあるかもしれない。そこで、市民が関わってくださったら、ちょっとお話したくなる配食ボランティアの方は多いから、ただ配るだけでなくお話しすることもあると思います。最初から口をきいてくれないことは、ボランティアの方はわかっていることで、何回も何回も繰り返し話しかけて、やっと口を開いてくれたことに、ボランティアの喜びを感じているので、そうしたことを通して、この方に接近するのはそう簡単ではないかもしれないな、というところをスタートにしながら、この地域でできることを、専門職と地域の方でネットを組んでいくことが重要です。

次に、地域にあるもので、どのような仕組みを活用できるか、すでに仕組みがあったらいいのですが、なかったらどうするかが問題です。

それが、SCさんの担当地域である場合と、無い場合があるはずなので、その時は作ってみたり、既存の物を調整したりして、なんとかそこに手繰り寄せようと、いきなり仕組みは無理だけど、Aさんのためなら一肌脱ぐ方が出てくるかもしれません。そこをマッチングしていくというのを、社協のボランティアセンターもそこに一緒になりながら、関わる人をどうやって耕していくか、これが先ほどのストックに厚みを付けていくという市民の力で、市民が主体的にやらなくてはいけなくて、行政のお願いや命令をしてやるものではないから、どうやって市民がこの地域で活動していこうと考える流れを作るためには、いろいろな仕組みが必要です。先ほどのファーストノックというのは、専門職は忙しいのでやりにくいと思います。市民の役割であると決めつけるものでもないですが、ファーストノックのための研修会を作ってみるといった仕組みもあるかもしれません。

こういうふうに、皆さんにいろいろお話していくことによって、実は第2層の中で解決策とか、問題点というのがさらに、来年度出てくるかと思えます。第1層の方でも、こうしたケースを取り上げながら市全体の問題としても考え、かつSCさんのみのエリアで、どのような支援が増えていったのか、それを第1層のコーディネーターがとりまとめて、第1層の市全体で共有次第、関り方に厚みを持たせてきたというのを可視化させながら、この地域ケア推進会議が展開されると、市民の方が、市川市に住んでいてよかったと、市川市に参加してみようという感覚が生まれてくると思います。ですから、個別のケースの支援と地域づくりの支援というのを行ったり来たりする癖を、是非第2層の方でもつけていただきたいし、第1層の方でも勉強をさせていただきたいと思えます。

山下会長	本日、私の方はこちらで終わらせていただきます。
地域包括支援 課長	皆様、いろいろな気付きを与えてくださりまして、ありがとうございました。話し合う時に、情報をまずは整理して、何が必要であるのか、その解決策や支援が何なのかを皆で共有し、共通の理解を図ることが大事だと感じました。お話ししながら、解決策を話すことで、より良い解決策が生まれるということを、私自身感じたところでございます。今日の機会を活かして、地域での議論の方を展開できるように、ネットワークを強化していただければと思います。
事務局	以上をもちまして、閉会となります。 本日はどうもありがとうございました。

(20 時 00 分閉会)